

鈴木製作奮闘記 [活動報告No.066]

はじめに

あ、今月15日に誕生日を迎え、29歳になりました。
20代最後の1年ですが、できれば無事に過ごしたいなと思います。
今月もよろしくお祈りします。

富山市科学博物館にてワークショップと講演会をしました。

7/30にワークショップ、31に講演会を行いました。
ワークショップの内容は「振り子式時計の組み立て」、講演会は「動く仕組みを考える」ということ
でいろいろとやってきました。

ワークショップは抽選10組でしたが70以上の応募があったそうです。学校が夏休みということもあり、当日は小学生と親が10組でした。



ワークショップは事前に用意した時計のキットを組み立てるという内容でした。
それ自体はよかったのですが、「工具をできるだけ使わないように」という要望があったため、使う
歯車は全て組み立てた状態で準備することになりました。。
となると10組という少数でもなかなかの作業量になり、前日のホテルでも内職する形となりました。

ですが、実際に皆で組み立てを行なってみると、1時間半の持ち時間でちょうどいい感じでした。
来たお客さんは満足度高めだったようですが、僕としてはめっちゃコスパが悪かったので多分次はや
らないかなあ…と思いました。

講演は昨年に千葉で講演した時ウケが良かったので、今回もほぼ同じ内容で行いました。
また、前回の時以降に作った作品(7セグ時計やホームクルスなど)も紹介できました。

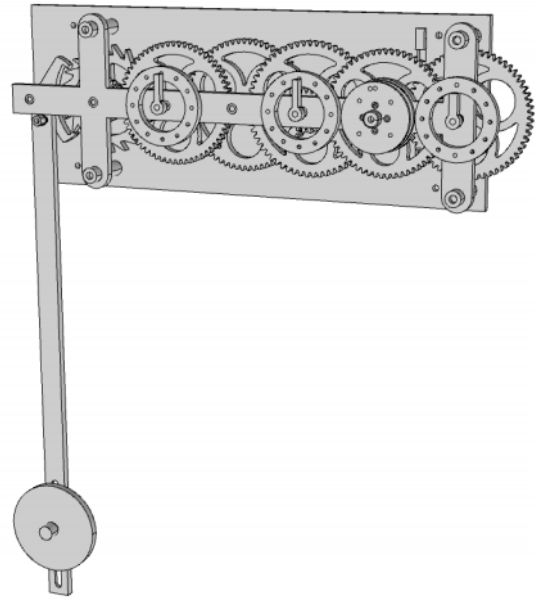


こちらも50人と少数でしたが早々に満員になったようでとても嬉しい限りです。
講演ではスライドの他に特別展示として書き時計も設置しました。
講演も小学生が半分を占めていましたが、最後まで眠ってしまう子供もなく、興味を持って聞いてくれていた印象でした。
また、小学生から「書き時計はどうして12時間表示なのか」などコアな質問が出たりしました。
講演終了後も書き時計を間近で観察していたり、追加で質問を受けたりと2日間とても良い経験ができたなと思います。



ワークショップ用の振り子時計の設計

ワークショップで組み立てた時計です。(作るのに夢中で綺麗な写真を撮り忘れてしまいました。)

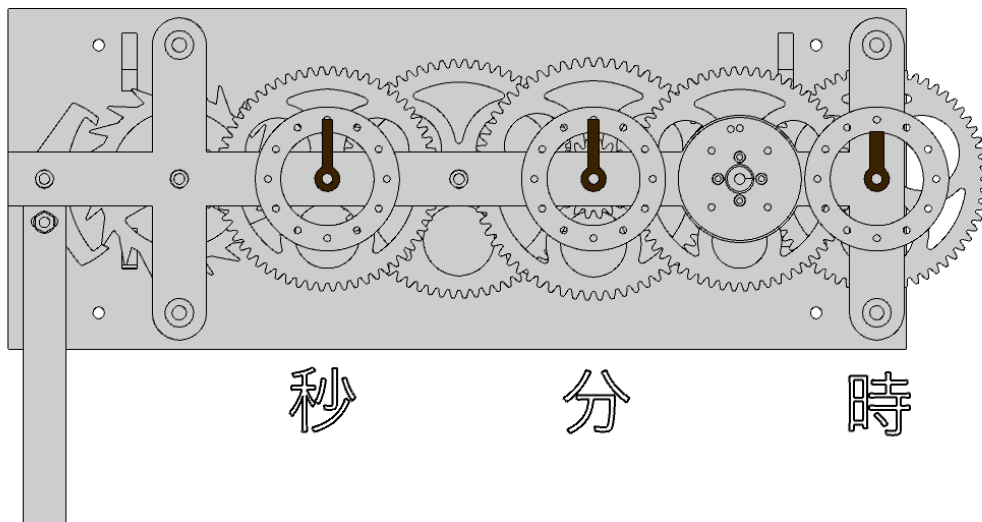


動きの動画：<https://twitter.com/BellTreeNursing/status/1552982812982054913>

この時計は歯車が左に進むにつれてどんどん速く回るように設計しています。

なので、3つの文字盤は左から秒・分・時となります。

この時計は組まれた歯車が6つから構成されていて、歯車が直線的に並んでいて、時・分・秒の速度で回る歯車があるので変速がわかりやすくなっています。



計算では、3時間で錘の糸が巻かれている歯車が1回転します。

糸が巻かれている部分は直径が3cmなので、円周がだいたい9cmちよいです。

なので糸が1mあれば30時間動くことになります。

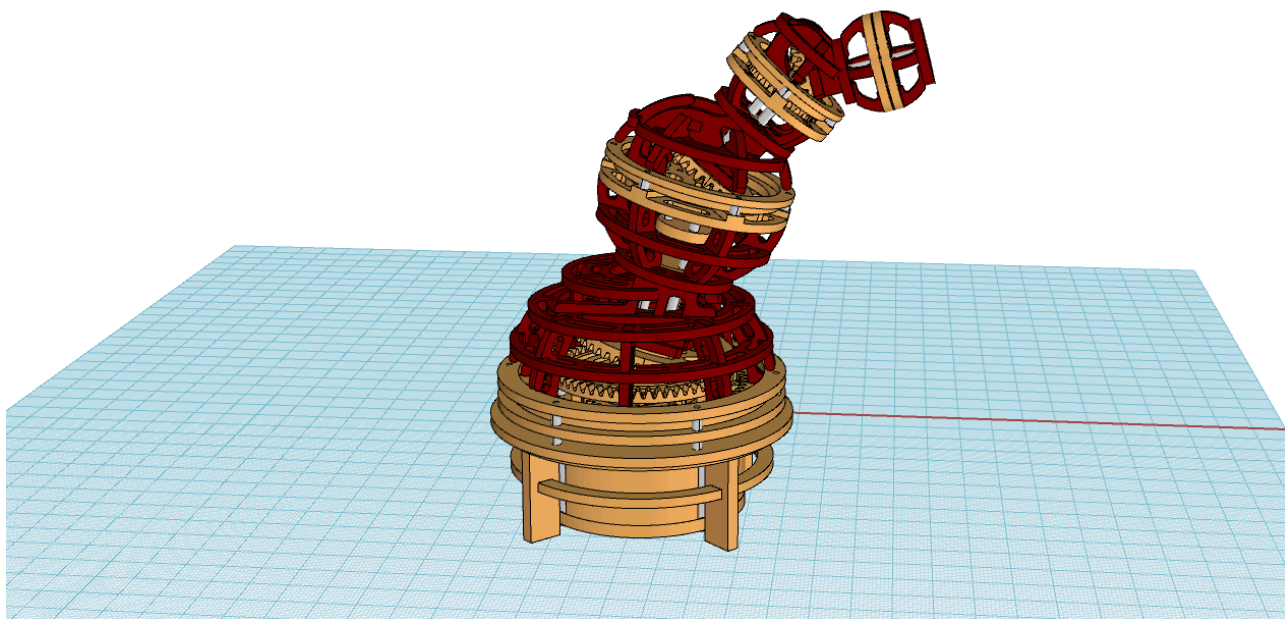
もちろん、錘が地面に着かないように高い位置に設置する必要があります。

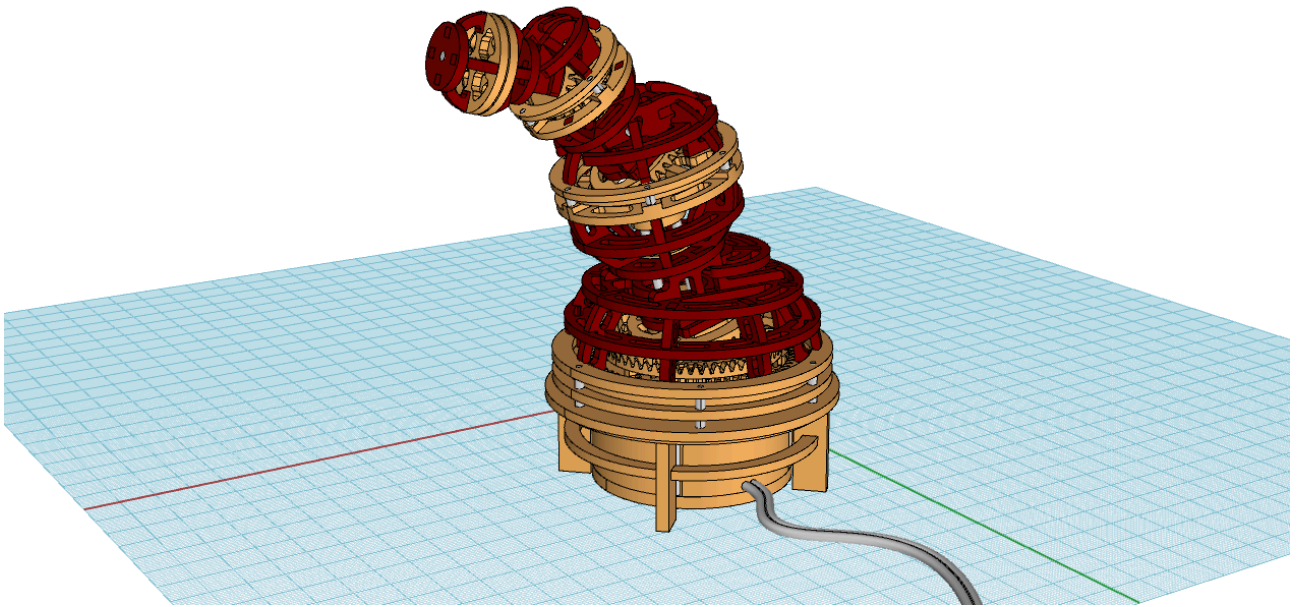
また、錘の容器を探すのも意外に苦労しました。
ペットボトルに砂と鉛玉を入れているのですが、装飾の無いペットボトルが意外に無いんですね。
奇跡的に見つけたのが天然水のペットボトルでした。「FUJI SUN SUI」という水なので錘の容器を探している人は是非とも使ってみてください。



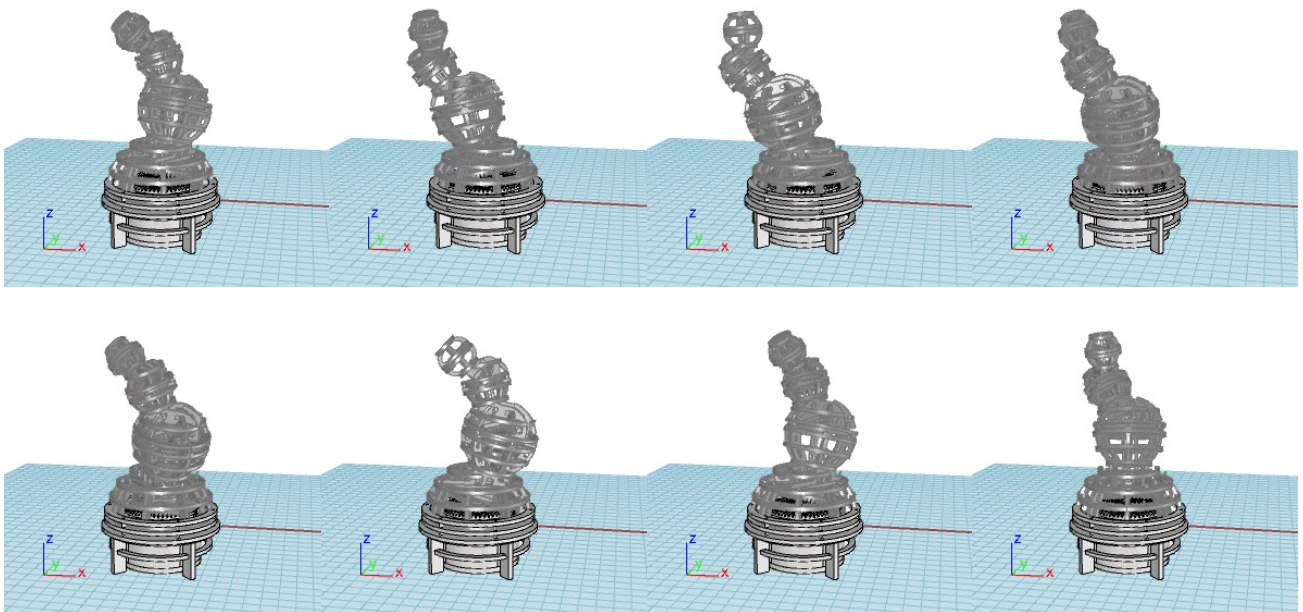
うねりのある作品を作る

今月はワークショップの準備でマシンを使っていたので作品が作れませんでした。
ですが、設計は地道に進めていました。
次は、うねりをテーマに作品を作ってみようと思います。
作品データはこんな感じです。





球体が斜めに連なっているような感じの作品です。(色は暫定です。)
それぞれの球体の上半分が回ることで、それぞれの傾斜の方向が変わっていくようにできるかなと考えたものです。



今までの作品は、固定されているフレームに可動部分をつけたものが基本だったのですが、今回は動く土台からさらに動く土台を付けるという、全体を見た時にフォルムが変化していくような構造体を目指しています。
構造的に若干不安な部分もありますが、うまくいけば「形状変化」も作品の要素の1つとして展開できるんじゃないかなと思います。

2ヶ月くらい作品制作が進まなかったので、来月はもう1つ作品を作れたらいいなと思います。
もう1つはオルゴールのなる時計です。

こちらはまだ構想を練っている段階なので画像はないのですが、7セグ時計にオルゴールがつくような感じです。ボリュームしだいでは来月のうちに完成まで至らないかもしれませんが、設計は進めていきたいなと思います。

以上で終わります。

ありがとうございました。m(_ _)m